

「フェロー諸島における現在の捕鯨、その歴史と挑戦」

Russell Fielding (米国南部大学)

北大西洋上に位置する半自律的なデンマーク領のフェロー諸島では、人間の食料として小型鯨類を捕獲している。本報告では、フェロー諸島における捕鯨の方法と文化の最新の状況の描写からはじめ、同捕鯨の歴史について述べたあと、「文化的に埋め込まれた保全戦略」の考え方について紹介する。それらの戦略は、フェロー諸島の捕鯨を数百年にわたって維持させている、地域の自然環境に文化的に適応する過程で発達し、保全機能として作用する、おもに不文律の慣習である。しかしながら2つの最近起こった脅威がこれらの保全機能戦略を凌駕し、フェロー諸島の捕鯨を終焉に導くかもしれない。本発表の最後には、反捕鯨の環境主義の展開および海洋環境の汚染研究が合体してきた方法を検討する。特に、捕鯨をやめるべきだというさらなる証拠として反捕鯨活動家が汚染調査からの結果を利用していることおよび彼らがそれら事態が環境危機の証拠であるこれらの緒査結果を批判もせずに拒絶していることについて考察する。